

いしかわり山塾(七尾班) ～大呑探検隊で地元の魅力を再発見!～

団体名●いしかわり山塾(七尾班):西村ゼミナール/代表者名●西村貴之(人間科学部スポーツ学科・教授)

はじめに

この取り組みは、「能登の里山里海」世界農業遺産活用実行委員会(事務局:石川県里山振興室)から本学地域連携センターへの委託事業「2021年度いしかわり山塾」の一環として実施された。小学生と大学生がグループで地域内を散策し、地元住民との交流を通じて地域の自然、生活、歴史、文化について学ぶとともに、地元住民自身が地元の魅力を再発見、再確認するきっかけづくりを目指した。主要連携団体は大呑グリーンツーリズム推進協議会、大呑地域農泊推進協議会、七尾市立東湊小学校であった。

活動内容

(1)大呑探検隊 ～出会って、学んで、Super Onomi Party～

日程:2021年11月25日(木)

場所:七尾市南大呑地域内

参加:東湊小学校6年生33名、教諭3名

本学学生16名、地元関係者約20名

内容:南大呑地域内の4町会(大泊、東浜、山崎【阿良加志比古神社】、花園)を小学生と大学生がグループに分かれて散策し、地元になんだクイズや体験活動を通じてポイントを獲得していくゲーム要素を加え、地域の自然、生活、歴史、文化について、楽しみながら理解を深めた。



獅子舞見学・体験



朝採れの魚



伐木見学・体験



歴史クイズ

(2)出前授業(事後学習会)

日程:2021年12月2日(木)

場所:七尾市立東湊小学校

参加:東湊小学校6年生33名、教諭3名、

本学学生8名、他関係者1名

内容:大呑探検隊に参加した児童と大学生と一緒に、南大呑地域で見つけた「地域の宝」について意見を出し合い、自分が理想とする未来予想図をイラストに描いて形にするワークショップを行った。



出前授業①



出前授業②

成果、結果の考察

筆者にとって七尾市大呑地域での取り組みは継続6年目となった。今年度の活動をはじめると同時に、小学生と大学生との関係の中で完結するのではなく「地元住民の関心や関わりをこれまで以上に促進する」という方針について関係者間で合意形成した。

企画・運営に中核的に携わった学生達は関係者との対話や聞き取りを積み重ね、事前の現地訪問は10回を越えた。その甲斐あって「大呑探検隊」実施当日は、平日開催にも関わらず、これまで以上に幅広い地元関係者に関わっていただくことができた。「改めて地元のことを振り返り、その可能性を捉え直す機会になった」と地元関係者からコメントを頂いている。

今後の課題、展望

取り組みを継続するとともに、これまでイベント的、単発的であった活動を、少しずつ恒常的、あるいは定期的にと、「点から線へ」の展開に向けた方策を地元の方々と共に模索していきたい。